㉗キュウリを育てよう

70～100グラム程度で収穫を

キュウリは，１年生のツル性草本で，低温に弱く非耐凍性です。キュウリは雌雄同株で節ごとに花をつけます。日本のキュウリは中国の華南や華北のキュウリに由来し，前者は春キュウリに，後者は夏キュウリとして発達しました。両者の特性を備える雑種群も成立し，周年栽培を容易にしています。

①種まき

キュウリの発芽適温は，２５～３０度です。種まきは，植え付け３０日ぐらい前で，黒ポットかセルトレーに播きます。本葉が２枚，３枚出たぐらいが植え付け適期です。

②畑の準備

植え付け２週間ぐらい前に，１平方メートルあたり苦土石灰１５０グラム全面に施し耕します。その１週間後，９０～１２０センチのうね幅で平うねを作ります。施肥は，うね全体に１平方メートルあたり堆肥３キロ，化成肥料（成分１５・１５・１５）１５０グラム，ヨウリン３０グラムを施し深く耕します。

③植え付け

株間７０センチで植付けますが，深植えは禁物です。植え付け後はたっぷり水をかけます。

④支柱立てと誘引

草丈が３０センチほどになってツルが伸びはじめたら，支柱を立てて誘引をします。市販のキュウリネットも利用できます。

⑤追肥・土寄せ

追肥は，植え付けて２週間後に１平方メートルあたり追肥用化成肥料を３０グラム程度施し，以降は果実が成りはじめてから２週間に１回程度の割合でうねの肩の部分に施し，軽く土寄せします。肥料切れになると奇形果の発生や，病気が多発します。

⑥着花習性と整枝方法

夏キュウリは各節ではなく，とびとびの節に雌花が付きます。親ヅルを７節で摘芯し，下から出てくる子ヅル２～３本をのばして，支柱の高さで摘芯します。孫ヅルに着果させ１，２節目で摘芯します。

⑦病害虫防除

主な病気は，葉に黄色い斑点が発生するべと病やうどんこ病などが発生し，害虫ではアブラムシ（ヌイ），ハダニ，ウリハムシなどが発生します。

⑧収穫

収穫が遅れると，株が衰弱して病気が発生しやすくなるので，重さが７０～１００グラム程度で収穫します。曲がった果実や尻が太い果実などの奇形果は，早めに除去します。

（鹿児島市都市農業センター）

平成３１年6月１３（木）／南日本新聞